

## 【基調対談】

**雨宮 処 凜** (あまみや かりん) 作家／活動家／一般社団法人反貧困ネットワーク世話人

1975年、北海道生まれ。作家・活動家。フリーター等を経て2000年、自伝的エッセイ『生き地獄天国』(太田出版、2000年)でデビュー。2006年からは貧困問題に取り組み、『生きさせろ！－難民化する若者たち－』(太田出版、2007年)はJCJ賞(日本ジャーナリスト会議賞)を受賞。

著書『非正規・単身・アラフォー女性－「失われた世代」の絶望と希望－』(光文社新書、2018年)、『この国の不寛容の果てに－相模原事件と私たちの時代－』(編著、大月書店、2019年)、『ロスジェネのすべて－格差、貧困、「戦争論」－』(編著、あけび書房、2020年)、『相模原事件・裁判傍聴記－「役に立ちたい」と「障害者ヘイト」のあいだ－』(太田出版、2020年)等多数。最新刊は『学校では教えてくれない生活保護』(河出書房新社、2023年)等。

## 【基調対談・講座①】

**木下 大 生** (きのした だいせい) 武蔵野大学人間科学部教授／NPO 法人風テラス理事

1972年生まれ。大学卒業後、医療ソーシャルワーカー、知的障害者通所授産施設支援員、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園研究係長、聖学院大学准教授を経て、2017年から武蔵野大学人間科学部教員。同年より大学院人間社会研究科兼務。専門領域は、障害者福祉、ソーシャルワーク。障害者福祉論、司法福祉論、多文化共生ソーシャルワーク論等を担当。研究は、認知症の知的障害者の支援、罪を犯した知的障害者の支援、マクロソーシャルワーク(ソーシャルアクション)、実践は、性産業従事者支援を行っている。

著書『ソーシャルアクション！あなたが社会を変えよう！－はじめの一步を踏み出すための入門書－』(共編著、ミネルヴァ書房、2019年)、『認知症の知的障害者への支援－「獲得」から「生活の質の維持・向上」へ－』(ミネルヴァ書房、2020年)、『知的障害と認知症－家族のためのガイド－』(共監訳、現代人文社、2021年)等。

## 【講座①】

**横山 北 斗** (よこやま ほくと) NPO 法人 Social Change Agency 代表理事／ポスト申請主義を考える会代表／

社会福祉士／修士(社会福祉学)／武蔵野大学人間科学部社会福祉学科非常勤講師  
群馬県前橋市生まれ。神奈川県立保健福祉大学を卒業後、社会福祉士として医療機関に勤務したのち2015年にNPO法人を設立。2018年、申請主義により社会保障制度から排除されてしまうことに問題意識をもち、ポスト申請主義を考える会を設立。2019年より東京都文京区地域福祉活動計画委員、2021年より内閣官房孤独・孤立対策担当室HP企画委員会委員、2023年よりこども家庭庁幼児期までのこどもの育ち部会委員を務める。

著書『15歳からの社会保障－人生のピンチに備えて知っておこう！－』(日本評論社、2022年)。

**大西 連** (おおにし れん) 認定 NPO 法人自立生活サポートセンター・もやい理事長／

内閣官房孤独・孤立対策担当室政策参与

1987年、東京生まれ。2010年頃より、ホームレス支援、生活困窮者支援に携わる。理事長を務める〈もやい〉は、コロナ禍の支援として毎週土曜日に新宿都庁下にて約700人に食料品を配布している他、面談、電話、メール、チャット等で年間約7,000件の相談対応を行っている。また、現場での支援をはじめ、日本の貧困、格差の問題、生活保護等の社会保障制度について、積極的に発信や政策提言をしている。2021年6月より内閣官房孤独・孤立対策担当室の政策参与も務める。他に、社会福祉法人いのちの電話理事、政府のSDGs推進円卓会議構成員等。また、2019年から2021年まで早稲田大学文化構想学部にて非常勤講師として「貧困と社会的排除」の授業を担当。

著書『すぐそばにある「貧困」』(2015年、ポプラ社)等。

**可知 悠子** (かち ゆうこ) こども家庭庁長官官房 EBPM 推進室・参事官補佐

東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。博士(医学)。専門は公衆衛生学、社会疫学。研究テーマは親子の健康の社会格差。2010年4月から12年間、帝京大学医学部、日本医科大学、北里大学医学部に於いて公衆衛生学の教育と研究に従事。こども家庭庁の主要課題に、仲間との共同研究により可視化した「未就園児の課題」が取り上げられたことをきっかけに、2022年7月内閣官房こども家庭庁設立準備室参事官補佐に着任し、2023年4月から現職。受賞は、2018年第28回武見奨励賞、2020年遠山椿吉記念第6回健康予防医療賞山田和江賞等。

著書等『保育園に通えない子どもたちー「無園児」という闇ー』(筑摩書房、2020年)、『子どもの貧困と食格差ーお腹いっぱい食べさせたいー』(共編著、大月書店、2018年)、“Socio-Economic Disparities in Early Childhood Education Enrollment: Japanese Population-Based Study” (Kachi Y, Kato T, Kawachi I, *J Epidemiol.*, 30(3), 2020, pp.143-150) 等。

## 【講座②】

**木下 武徳** (きのした たけのり) 立教大学コミュニティ福祉学部教授

京都府立大学、同志社大学大学院、日本学術振興会特別研究員、北星学園大学社会福祉学部教授を経て、2016年度より立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科教授。専門は、福祉政策、特に公的扶助政策、障害者福祉政策に関心を持って研究をしている。博士(社会福祉学)、社会福祉士。現在、日本社会福祉学会事務局長、大田区福祉オンブズマン等を担当。

著書等『アメリカ福祉の民間化』(日本経済評論社、2007年)、『生活保護と貧困対策ーその可能性と未来を拓くー』(共著、有斐閣、2018年)、『社会福祉ー新しい地平を拓くー』(共著、放送大学教育振興会、2022年)、『厚生労働省 令和3年度障害者総合福祉推進事業 手話奉仕員及び手話通訳者養成事業の現状把握と課題整理事業報告書』(共著、社会福祉法人全国手話研修センター、2022年)、「アメリカにおけるコロナ禍の低所得層への経済給付ー公的扶助を中心にー」(『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第10号、2022年) 等。

**二 木 泉** (にき いずみ) トロント大学博士課程 (社会学) 在籍 / 高齢者入所施設レクリエーション担当スタッフ (カナダ) / オンタリオ州認定ソーシャルワーカー / 介護福祉士

大学卒業後、民間企業を経て、国際基督教大学大学院 (修士 (行政学)) での研究で出会った認知症ケアや介護労働の深さに魅力を感じて、ケアの世界に飛び込む。認知症専門デイサービス、訪問介護、専門学校講師、NPO 法人事務局、大学の研究助手等に従事。2014 年より子ども 2 人と共に、カナダのトロント大学大学院に留学 (修士 (ソーシャルワーク))。現在はトロント大学大学院 (社会学部) でケア労働・移民・インターセクショナルリティの研究をしながら、アジア系高齢者入所施設のレクリエーション担当スタッフとして、カナダ在住の日系人・日本人シニアにアクティビティを提供している。

**著書等**『脱「いい子」のソーシャルワーカー反抑圧的な実践と理論ー』(共著、現代書館、2021 年)、『月刊ケアマネジメント』(環境新聞社)に「人権の国で学ぶ介護福祉士のカナダの福祉 最新レポート」を連載中。

**日野原 由 未** (ひのはら ゆみ) 岩手県立大学社会福祉学部准教授

中央大学法学部卒業後、中央大学大学院法学研究科博士課程前期課程修了、中央大学大学院法学研究科博士課程後期課程修了。日本学術振興会特別研究員 DC2 等を経て、2016 年より岩手県立大学社会福祉学部講師、2020 年より現職。専門は比較福祉国家論、福祉政策。博士 (政治学)。イギリスの公的医療制度である NHS における外国人医師の存在に光をあて、福祉国家と移民との関係を研究。近年は、社会的ケア部門における外国人材の受け入れについてもとりあげながら、ブレグジット (イギリスの EU 離脱) に伴うイギリスの医療・福祉供給体制の現状分析を行い、直面する課題に関する研究に取り組んでいる。受賞は、2020 年第 22 回 SOMPO 福祉財団賞。

**著書**『帝国の遺産としてのイギリス福祉国家と移民ー脱国民国家化と新しい紐帯ー』(ミネルヴァ書房、2019 年)、『公正社会のビジョンー学際的アプローチによる理論・思想・現状分析ー』(共著、明石書店、2021 年)。

**佐 藤 順 子** (さとう じゅんこ) 佛教大学専門職キャリアサポートセンター専任講師

京都市役所福祉事務所生活保護現業員、児童相談所児童福祉司、病院医療相談員等として勤務後、現在、佛教大学専門職キャリアサポートセンター専任講師。社会福祉士・保育士養成課程科目を担当。社会福祉士、精神保健福祉士。

京都市上京区生まれ。立命館大学心理学専攻卒業。多重債務者問題の社会化をきっかけに、生活福祉資金貸付制度と家計改善支援等、生活困窮支援の仕組みとあり方に関心を持つ。近年はフランスの家庭経済ソーシャルワーカーについて研究中。

**著書**『マイクロクレジットは金融格差を是正できるか』(編著、ミネルヴァ書房、2016 年)、『フードバンクー世界と日本の困窮者支援と食品ロス対策ー』(編著、明石書店、2018 年)、『困窮者に伴走する家庭経済ソーシャルワーカーーフランス「社会・家庭経済アドバイザー」の理念と実務ー』(監訳、明石書店、2022 年) 等。

## 【講座③】

**岡 部 卓** (おかべ たく) 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科専任教授

自治体職員、日本社会事業大学・日本社会事業学校教員を経て、1995年4月東京都立大学助教授、2001年4月～2019年3月首都大学東京（現、東京都立大学）教授。2019年4月より現職。社会保障論、社会福祉制度論を専攻。貧困・低所得者問題とその方策を中心に研究・社会的活動を行う。近年の社会的活動として社会保障審議会委員（厚生労働省）、東京都社会福祉協議会理事等を務める。

**著書**『新版 福祉事務所ソーシャルワーカー必携—生活保護における社会福祉実践—』（全国社会福祉協議会、2014）、『生活困窮者自立支援ハンドブック』（編著、中央法規出版、2015）、『生活困窮者自立支援—支援の考え方・制度解説・支援方法—』（編著、中央法規出版、2018）等。

**林 星 一** (はやし せいいち) 座間市福祉部参事兼福祉事務所長兼地域福祉課長

東北福祉大学卒業後、社会福祉法人県央福祉会に勤務。知的障がい者の支援にあたる。1999年、ケアマネジャーとして株式会社ニチイ学館に入社。その後本社ヘルスケア事業本部で介護事業全般に携わる。2006年、座間市役所入庁。生活保護ケースワーカーとして9年間勤務後、2015年から生活困窮者自立支援事業を担当。行政と地域が一体となった生活困窮者自立支援「チーム座間」の取り組みは『誰も断らない—こちら神奈川県座間市生活援護課—』（篠原匡著、朝日新聞出版、2022年）に紹介された。2019年から生活援護課長、2022年から座間市福祉部参事兼福祉事務所長兼福祉長寿課長、2023年4月より現職。社会福祉士。一般社団法人つながる社会保障サポートセンター理事。厚生労働省「生活困窮者自立支援のあり方等に関する論点整理のための検討会ワーキンググループ」構成員（令和3年度）等。主な論文に、『断らない相談支援』が育む連携体制—座間市生活困窮者自立支援事業の実践—（『住民と自治』No.702、自治体問題研究所、2021年）等。

**藤 田 智** (ふじた さとし) 港区保健福祉支援部高齢者支援課高齢者福祉係長

港区に入区以降、東京都総務局への派遣勤務等を経て、福祉部門に所属。2008年4月から子ども課で認証保育所の運営支援等や港区次世代育成支援対策行動計画の策定等を担当。2010年4月から企画課で、港区基本計画の策定の他、福祉施策全般に係る庁内調整を担当し、施設計画を含む各施策の検討に携わる。2017年4月からは、保健福祉課で地域包括ケアシステムの構築を担当し、医療機関等の関係機関の協力を得て、各種施策を推進するとともに、2018年には港区成年後見制度利用促進基本計画の策定を担当。2023年4月より現職で、港区の高齢者施策全般の推進や取りまとめを担当。

**二階堂 樹** (にかいどう たつき) 伊賀市役所健康福祉部医療福祉政策課主幹

東京学芸大学心理臨床専攻卒業。横浜市役所に社会福祉職として入庁し鶴見区にて生活保護ケースワーカーとして5年間勤務。その後Uターンし上野市役所（現、伊賀市役所）に事務職として入庁。ふたたび生活保護ケースワーカーとして勤務した後、地域包括支援センター、市民病院等で勤務。この間地域包括支援センターの開設や地域福祉計画・介護保険事業計画の策定、高齢者の総合相談・権利擁護、認知症施策の推進に携わる。2015年4月から2023年3月まで生活困窮者自立支援制度を担当。自立相談支援機関の主任相談支援員として個別の相談支援や相談支援のマネジメント、ひきこもりサポート事業の展開、また相談支援包括化推進員、地域福祉計画プロジェクトチームメンバー、三重県生活困窮者自立支援制度研修企画委員等として、相談支援、地域づくり、人材育成等に取り組む。2023年4月より現職。認定社会福祉士（地域社会・多文化分野）、公認心理師。